



われら専修人  
[スポーツ編]

File No.93

2012年1月5日、東京・国立競技場は、歓喜と熱気に包まれた。サッカー部が関東リーグ1部制覇に続き、「全日本大学サッカー選手権大会」に初出場、初優勝という、まさに快挙を成し遂げたのだ。大学日本一となった源平貴久監督に、その勝因やチームづくりなどについて、うかがった。

インカレで初優勝して以来、サッカー一部のOB、校友、大学関係者などから、たくさんの祝福のメールや電話をいただきました。一番大きな反応は、Jリーグを含めて日本サッカー協会から評価してもらったことではないかと思います。専用グラウンドのない練習環境でも、こういうサッカーができる、結果が出せる……。協会の偉い人が観戦して「いい内容で、面白い!」とか、Jリーグの人たちも「Jリーグより、専大の試合の

イメージを持って「変化」に柔軟に対応できるかどうか、非常に重要です。試合に出場している本学の選手たちを見ていると、「本当に凄いな!」と思います。僕自身、普段の生活で「変われ!」と言われても、なかなか変わらないですからね。

勝因の大きな要素として挙げられるのは、スカウティングです。スカウティングで8割は決まってしまうくらい、監督にとって大事です。そのため、高

## サッカー部、快挙。源平貴久監督



村田監督へ

「トレーニング方法をはじめ、お互いに良いところを取り入れて、頑張っていければと思っています。大学内にサッカー部やラグビー部の部員をはじめ、体育部全体で、情報交換や意見交換などができる場所があると面白いですね」

ほうが面白い!」と感想を述べています。

初優勝という奇跡ともいえる結果が出せた勝因は、試合に出場する選手11人全員に、「向上心」があったからだと思います。本学に入学してくる選手は高校時代、代表歴もなく二番手、三番手、ひよっとすると四番手です。スカウトにあたって、判断の一番の決め手は「向上心」です。六大学に行く選手は周囲から、ちやほやされるせいか、強い「向上心」があまり感じられない人もいます。

加えて、「変化」に対応できるかどうか。本学のサッカーは、とにかく「変化」を求めます。練習や試合のさまざまな状況において、選手一人ひとりが

校生の試合では新人戦、インターハイの予選、県大会等々、全国の試合を欠かさず観に行くようにしています。

僕のスカウト能力はJリーグからも評価されていますが、チェックするポイントとして、まず技術があるかどうか。次に性格。それと、その選手がサッカーを教えてもらった過程です。たとえば中学はどこで、高校はどこなどを詳しくチェックします。自分のスカウティングのスタイルとして好きなのは、関係者が手をつけない選手をシブく採りに行くこと。逆に売り込みに来るような選手は、あまり採らないですね。(談)

### げんべい たかひさ●

1995(平成7)年、経営学部経営学科卒業。1972年生まれ。静岡県出身。卒業後は富士通に入社。富士通サッカー部(97年より川崎フロンターレ)でプレー。

1999年 本学サッカー部コーチ

2005年 監督就任

2006年 初の関東大学サッカーリーグ戦1部昇格も1シーズンで2部降格

2008年 同リーグ戦で再び1部昇格

2009年 同リーグ戦で2部降格

2010年 同リーグ戦2部優勝

2011年 同リーグ戦1部昇格即優勝、全日本大学サッカー選手権大会に初優勝